

1 【出題の意図と対策】

文学的文章（小説）の読解で、ここでは、植松三十里の『帝国ホテル建築物』が題材です。帝国ホテルの新館を建設するにあたって、職人たちの士気を上げるべく、設計者であり世界的建築家のライトと、ホテルの支配人である林愛作が演説を行う場面です。小説を読むときには、登場人物の立場に立ち、状況や心情の変化をとらえていくことが大切です。それぞれの設問について、何が問われているのか、文章中のどの部分が根拠となっているのかを確認しながら、解答していきましょう。

【解答】

- ① たずさ（えて） ㉑ ばんかん
- ② 信じ、絶対にライト館を完成させる（16字）
- ③ **例** エ
- ④ **例** ア
- ⑤ 愛作の思いを理解して、やると言ってくれた石工たちの無垢な純粋さに感動した（36字）
- ⑥ **例** エ

【解説】

- ② ポイント《人物の心情を正しくまとめられるかどうか》
佐一郎に「覚悟が定まっていな。……ライトさんを信頼するなら、信じればいい」と言われた愛作は、翌朝、現場を見たあとで「なんとしても、ここにライト館を建てる」「私はなんとしても完成させる」と決意しています。ライトを信じることに、必ずライト館を完成させること、の二点をとらえまとめます。
- ③ ポイント《ことばの意味を正しく理解できるかどうか》
「こんなホテルは……どの町にもない」というホテルの様子を表すのは、この世でただ一つしかないという意味の、**エ**「唯一無二」です。**ア**「千載一遇」は、めったに訪れそうもないよい機会、**イ**「完全無欠」は、不足や欠点が全くないこと、**ウ**「空前絶後」は、非常に珍しいこと、を意味する四字熟語です。
- ④ ポイント《人物の心情を正しく理解できるかどうか》
愛作は、ライトの話のあと「男たちの顔が引き締まった」のを見て、みなのが高まったことを感じ取ります。そして、自分が話し終えたあとでは「静まり返った」場の様子に、「やはり自分には、勢いづけることなど無理なのだ……それでも何がなんでも遂行すると、改めて決意を固め」ています。自分はライトのようにできなかったが、それでもライト館を完成させてみせると決意する様子が読み取れるので、正解は**ア**です。**イ**は「恥ずかしく思っている」、**ウ**は「冷静に話せた自分に満足している」、**エ**は、「自分ひとりであるしかな」と孤独に陥っている」が合っています。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
傍線部を含む一文に、「その無垢な純粋さに、とうとう涙がこぼれた」とあり、無垢な純粋さに感動して涙したことがわかります。次に、「その」が指す内容を考えると、「その」の直前に、「石工たちも、俺も俺もと続く」とあり、ここまでの内容から、源太をはじめとする石工たちが、愛作の思いを理解し、「俺はやるよ」、「俺も俺も」と言ってきたことだとわかります。
- ⑥ 「その」が指す内容と愛作の気持ちをとらえてまとめましょう。
ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》
アは、「冗談を言うこと」で、愛作に問題を深刻に捉えすぎないよう暗に促している」が合っています。**イ**は、愛作が「図面を携えて、ライト館の現場に行ってみた」のは、佐一郎に「覚悟が定まっていな」と言われ、自分の気持ちを確かめたかったからなので、合っています。**ウ**は、「西洋人や日本人の客を迎える」とあることから、ライト館は「西洋人向け」というわけではありません。また、「日本では使用されることのない材料」かは本文からはわかりません。また、**エ**は、「胸を張る」動作は自信のある様子を表すので、愛作から、現場の現状と、覚悟を聞かされたときのライトの反応に合っています。

2 【出題の意図と対策】

説明的文章（論説文）の読解で、題材は、鳥越皓之「村の社会学―日本の伝統的な人づきあいに学ぶ」です。八幡様の木の問題という具体例を挙げて、村というコミュニティのシステムについて述べられています。論説文の中に具体例が出てきた場合は、何を伝えるための具体例なのか、筆者の意見とどのようにつながるのかを考え、内容を読み取っていくことが大切です。

【解答】

- ① **㉑** 互（いに） **㉒** 廃棄
- ② **エ**
- ③ X 個人所有
- ④ Y 共同労働のかたち
- ⑤ **例** **ウ** 後にしこりが残らないように、村の中心の人が最後に決着をつける（30字）
- ⑥ **例** **イ**

【解説】

- ② ポイント《文法（形容動詞・副詞）の知識があるかどうか》
形容動詞と副詞は、「〜な」の形に活用させて体言（名詞）につくかどうかで見分けるのが基本です。**ア**「明確に」、**イ**「論理的に」、**ウ**「大幅に」は、どれも「〜な」の形に活用させて体言に続けることができるので形容動詞です。**エ**「実際に」は、副詞で、「実際の」と活用させることができません。
- ③ ポイント《筆者の主張を正しく理解できるかどうか》
「村というコミュニティにおいては」とある第一段落と、続く第二段落に着目します。村では、「仕事の多くは共同労働のかたち」をとり、それは「自然を相手にする仕事であるから」だと書かれています。「自然のシステムは個人所有されてい」ないため、「共同で判断し、共同で管理・労働せざるを得ない」のです。ここから指定字数に合うことばを抜き出しましょう。
- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
「八幡様の木の問題」とは、八幡様の木によって自分の田が影になり、生態系サービスの効率が落ちるため、この木を伐つてもよいかというものです。「八幡様の木を伐るとなると、これはもう個人の判断ではできないこと、村の判断とな」とあるので、**ア**は、「個人的葛藤」が誤りです。**イ**は、「八幡様の木の問題は、供給サービス（食料）と文化的サービス（宗教）とのトレードオフです」とあるように、「食料をつくり出す」のは供給サービス、「八幡様への信仰」は文化的サービスです。**ウ**は、最後から三つ目の段落「原則を守ろうとする正論派と、生きていくためにはしょうがないという現実派との論争になる」といった内容に合っています。**エ**は、「八幡様の木の問題」に法律は無関係ですので合いません。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
最後から二つ目の段落に着目します。「全員で賛否を決するか、村の中心の人……を選ぶことが多かった」とあります。「全員で賛否を決する」は、すでに問題文に書かれていますので、重複しないように注意しましょう。
- ⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、「村人に開かれたシステムとして存在する生態系」が誤りです。**イ**は、「さて、先ほどの話に戻ります」とから始まる段落と、その次の段落の内容に合っています。**ウ**は、生態系サービスについて優先度は述べられていないので合いません。**エ**は、「同種の生態系サービス同士についてはトレードオフの関係になることがない」とは書かれていませんので、合いません。

3 【出題の意図と対策】

古文を含む融合文の読解で、題材は、言語学者、山口仲美の『日本語の古典』です。江戸時代の俳人、松尾芭蕉の『おくのほそ道』の「立石寺」の章段、「閑さや」の句について、実際に立石寺に足を運んだときの思いを述べています。現地に行ってみてわかったこと、「蟬の声」の正体や、芭蕉の文章構成の意図、俳句の推敲の工夫など、興味深い内容が展開されています。それぞれの内容について、筆者の見解とその理由を押さえ、設問に答えていきましょう。

【解答】

- ① エ
- ② X たったの七〇字余
- ③ Y 前面に迫り出させる
- ④ I 何蟬の声でもいい
- II ニイニイゼミが相当数（10字）

【解説】

① ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、本文に「全山岩石という立石寺」とあるため、「せみ塚のあたりにだけ大きな岩がある」が合っています。 **イ**は、筆者はアブラゼミは、『閑さや』の句の蟬としてふさわしくない」とは述べていません。 **ウ**は、「奥の院までの道のりを人に尋ねると……と言うではありませんか。私は諦めました」とあり、合っていない。 **エ**は、「案内図によれば……左に折れると、岩上に立つ開山堂などの御堂を通り、鎖にすがって岩を這い登る道がある」という記述に合っています。

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
 「なのに、『おくのほそ道』は」の部分から傍線部に続く部分に、『おくのほそ道』の文章構成の巧みさ」が具体的に述べられています。筆者は、『おくのほそ道』では、奥の院までの大変な道のりを「たったの七〇字余」で記しているとし、「最後の句だけが、目立つのです……芭蕉は最後の『閑さや』の句を、前面に迫り出させるために、……苦しい道中をことさらに簡略化している」と述べています。最後の句を目立たせるために、苦しい道中の様子を簡潔に記した、と筆者が考えていることがわかります。したがって、Xには「たったの七〇字余」、Yには「前面に迫り出させる」を書き抜きます。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、**B**は「ややスケールの小さい感じのする句」だとあるので、「蟬のうるさいくらい大きな鳴き声を感じさせる」が誤りです。 **イ**は、**B**について『山寺』『石』の語のせい、ややスケールの小さい感じのする句」とあるのと、**A**について「スケールの大きい静寂な空間に身を置いたような感じがする句」とあるのに合っています。 **ウ**は、『さびしさや』と言われると、句のもつ味わいが限定されてしまいうとあるので誤りです。また、**A**は「その味わいをあえて消」しているという記述もありません。 **エ**は、「しみ込む」とすると、蟬の声ではなく「水のよくな淡いものが連想されてしまう」とあるので、「瞬時に消えてしまうような小さい蟬の声を連想させる」が誤りです。

④ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
Iは、第一段落に着目します。筆者は、「文字の上で『閑さや』の句を味わっていたときは……何蟬の声でもいいように思っていた」とあります。 **II**は、続く第二・第三段落に着目します。筆者は「実際に立石寺に身を置いてみると、『どの種類の蟬の声かは、重要な鑑賞のポイントである』ことに気づきます。そして『全山岩石という立石寺で、『岩にしみ入』感じがするには、やはり相当数の蟬が『チージー』と鳴いていないといけない」と考えるようになりました。指定字数に合わせ、「蟬」を具体的に「ニイニイゼミ」と示してまとめましょう。

4 【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。話し合い形式の問題では、話し合いのテーマや話し合いで主張されている意見とともに、問題で用いられている資料の意図も正確に読み取ることが大切です。普段から資料を使った問題などに関心を向けて、その内容や用いられている資料のポイントを頭の中でまとめる訓練をするように努めましょう。

【解答】

- ① エ
- ② ウ
- ③ ア・イ・エ（完答）
- ④ Y Z
- 【例】ウ（Y・Zで完答）

【例】「なぜなら、」台風で停電することがあるが、停電への備えを何もしていないからだ。携帯電話用にモバイルバッテリーを充電しておき、簡単な調理用にかセットボンベを用意したいと思う。（79字）

【解説】

① ポイント《熟語の構成の知識があるかどうか》
 「非常食」は、「非常のときの食べ物」の意味で、上の二字熟語が下の一字を修飾する三字熟語です。同じく二字十一字の構成は**エ**「中学生（中学校の生徒の意）」。 **ア**は「非十常識」、**イ**は「心・技・体」、**ウ**は「不十愛想」。

② ポイント《資料を論理的に読み取ることができかどうか》
 「達也さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意する必要があります。達也さんは、【資料Ⅰ】から読み取ったことをもとに「各家庭の防災対策には改善の余地がありそう」という考えを述べているので、その考えの根拠となる内容を考えます。 **ア**は、「全くできていない」「あまりできていない」の合計割合は、77・5%から74%に下がっている。 **イ**は、「3・5ポイント減少」ではなく「増加」の誤りです。 **ウ**は、災害対策がややできていくとの回答は3・6ポイント、あまりできていないとの回答は4・3ポイント増加しており、あまりできていないと回答した人の方が、増え幅が大きいので合っています。 **エ**は、対策が十分できていると回答した人は0・1ポイント減少している。 **オ**は、誤りです。また、達也さんの考えとは合いません。

③ ポイント《発言の特徴を理解できるかどうか》
アは、達也さんの4回目の発言内容に合っています。梨花さん、麻美さん、奏太さんは防災用品をどう用意するかについて発言していますが、達也さんは「どのような危険に備えるか」に目を向けています。 **イ**は、梨花さんの三回目の発言に合っています。どこから手をつけたらいいのかわからない、という麻美さんの発言に、達也さんがハザードマップを提案し、梨花さんが実際にどう役立てたのかを説明しています。 **ウ**は、「対策を提示している」が誤りです。 **エ**は、奏太さんの三回目、四回目の発言内容に合っています。 **オ**は、奏太さんが【資料Ⅱ】を、梨花さんが【資料Ⅲ】を紹介しています。奏太さんは資料についての自身の考えを伝えてはいないので誤りです。

④ ポイント《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》
 「自分の家の事情に即して」、必要な防災対策を考えます。例えば、**ア**を選んだ場合、地震対策が必要。↓（なぜなら、）本棚の前に寝ているのに、本棚の転倒防止策を何もしていないから。↓本棚に転倒防止の突っ張り棒を設置する、などが考えられます。すでに実行していることでも構いません。一文目と二文目のつながりに気をつけて、字数内でまとめましょう。